
二人でいるコトで...

yuki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二人でいるコトで…

【Nコード】

N1440B

【作者名】

yuki

【あらすじ】

元の体に戻ること出来ないまま、灰原哀と江戸川コナンは中学生になった。お互い意識する中、少しずつ二人の関係は変わっていく。素直になれない二人のほんわかラブストーリー！。

「The beginning」(前書き)

これは二人の中学生での物語です。

誰もが体験したことがある甘酸っぱさを、表現できたら良いなあと思います。

二人の心情を表すときは<新一><志保>としていますが、あまり気にしないでくださいね。では…

「The beginning」

<志保side>

最近幸せって思う事がある。

それは些細な事なんだけれども、それがなんだかとても愛おしく感じる。

でもそれに慣れて来たら、もっともつと上の幸せを願ってしまう。

あなたの気持が欲しいって思う事は、わがままなのかな？

<新一side>

あの本がどうだったとか、あの事件の犯人は誰だろうとか…

アイツとは話しのレベルが合うし、自分の本音も話せる。

一緒にいると楽で楽しい。

アイツが他の男子と話していると、妙にヤキモチをやいている自分がいる。

いつまでこんな関係でいられるかな。

「The beginning」(後書き)

初めて投稿する作品なので、んっ!?!?と思うところがあるかもしれませんが、笑っちゃっていただければ…

「Be too conscious」(前書き)

元の体に戻ること出来ないまま、灰原哀と江戸川コナンは中学生になった。お互い意識する中、少しずつ二人の関係は変わっていく。素直になれない二人のほんわかラブストーリー！。

「Be too conscious」

コナン達は中学3年生。11月はもう受験シーズンだ。もっぱらコナンと哀はどんなレベルを受験するにしろ、余裕の頭だから焦る事はない。

しかし歩美、元太、光彦の3人は勉強に明け暮れていた。

朝の通学路にて…

小学校の頃から5人で歩いてきた通学路。

いつからか後ろをコナンと哀、前を元気な3人組が歩くのが当たり前になっていた。

そしていつも通りの話をしながら歩く。

（コナン）「なあ灰原、今日ってなんかあったっけ？」

（哀）「えっと確か…美術でペアを作ってお互いの顔を書くんじゃないかったかしら」

（コナン）「かったりいなあ…お前、誰と組むつもり」

（哀）「さあ。でもまあ女子なら吉田さんかな。あなたは」

（コナン）「ああでも美術の坂岡はちょっと変わってるし…前は男女でくつつけられたな」

（哀）「ふん。そう…」

<新side>

俺は組むなら灰原なんだけど…アイツはどうなんだろ。アイツと組みたがる奴って多そうだしな。

チクショ！。何こんな事で不安になっているんだ、俺…

<志保side>

私から「組まない？」って言ったらおかしいかしら。彼どう答えるか。
男女ペアなら吉田さんが彼になりたいだろうし…他の子もきつとそう。

って私何中学生みたいな事考えているのよ。

美術の時間にて…

案の定、3・4時間目の美術は男女ペアで顔のデッサンという事になった。

ペアは休み時間のうちに好きな人と組んでおけとの事…

（歩美）「あっコナン君！！いたいたもうペア決めなくちゃダメだよ」

（コナン）「歩美ちゃん…」（組もうって言われるのかな）

（歩美）「コナン君って、どうせ哀ちゃんと組むんでしょ？図星かナア」

（コナン）「うんっ？何を言って…いやあ、そりや他の女子よりは（な何だよ）

（歩美）「あっそう。でも良いの？他の男子は灰原さんに描いてもらいたいわって言うてたよ」

（コナン）「えっ」と、もしかしてその歩美ちゃんは…俺のアイツに対する気持ち…」

（歩美）「そりやあ知ってるよ 何年の付き合いだと？（笑やっぱりそっかそっか」

（コナン）「…アイツには言わないでくれよな」

（歩美）「言わないよっ！だってコナン君が哀ちゃんに告白するの見たいしね」

（コナン）「あのなあ、こう何と言つか、意識し始めたのはつい最近で告白とは…な」

(歩美)「なっじゃないよ。まあそこまで行かなくてもペア組まなきゃさ」

(コナン)「おっおう…」

<新side>

まさか歩美がこんなに感づいてるなんてな。歩美の奴、俺の反応見て楽しんでやがったな。

てつきり、まだ俺の事が好きだと思ってた。って何だ俺？バカか…でも案外誰かに知っててもらおうのって良いかもな。歩美なら手伝ってくれそうだし。

そういえば意識し始めたのつい最近って言っちゃったけど、そうだったけ？

俺はいつからアイツの事を…

そんな中…灰原は

(弘司)「灰原さん！！お俺とペア組まない？」

(哀)「…私はその」

(弘司)「さっき藤原の事断っていたけど、俺でもダメ？」

(哀)「私、組む人決まってるから…」(しっこいな)

(弘司)「誰それ？」

(哀)「えっ」と…それは」(聞かれても、約束してないし…)
(コナン)「俺だよ。灰原の相手。だから構わないでおいでくれる？」

(哀)「！！あつ…そう、私江戸川君とペアだから」

(弘司)「ふん。才色兼備の灰原と、頭も良いサッカー少年の組ね…まあいいや」

弘司はあきらめて帰っていった。しかし2人はクラスで軽い注目を浴びていた。

<志保side>

工藤君：私を助けてくれたのかしら。
それとも、まさか…ね。

(コナン)「大丈夫か？弘司だっけ…結構しつこかったな」

(哀)「ええ。あっありがとう、助かったわ」

(コナン)「おう。当たり前じゃん。小さくなってから俺達、二人で何でもやってきただろ？」

そういうとコナンは自分の席に顔を赤くして戻っていった。

<志保side>

今のは友達として？それとも…

なんだか私、意識しすぎてる？どうしよう。心まで中学生になってきたのかも。

ドキドキしてる…

<新一side>

何言っちゃったんだ俺…恥ずかしい。

アイツはどんな意味でとっただろ。

気づいていなければ良いけど、おもわず。それに俺、独占欲強すぎかな…

そしてとうとう始まった美術の授業。

お互い意識をしすぎて、相手の顔が見れなかった。

「Be too conscious」(後書き)

私も中学生ですが、この人とペアになりたいとか、隣の席になりたいとか思っ事があります。

やっぱり、そういうものですかね？

「angel of an early afternoon」(前書き)

いつもお互い一人で過ごす昼休み。
それを変えたいと思うコナンは哀に…

「angel of an early afternoon」

<志保side>

昼休みは一人でいる事が多い。

たまに吉田さんというときもあるけれど、活発な彼女についていくのは大変。

一人って嫌いじゃないし、いろいろ落ち着いて考えられる。

このクラスは何だかみんな元気がいい。

教室にいつもいるのは、私と難易度の高い高校を受験する人達…

といっても先生に勉強を聞きに行くか、図書室で勉強をやるかだから実際は私だけか。

工藤君は、いつも姿が見えない。

得意のサッカーをやっているのかと思って外を見ても、その中に彼はいいない。

不安： たったこれだけの事だけど、それだけで何かが足りないような気持ちになる。

私の心、だいぶ弱くなっちゃったみたい。

自分を変えて社交的になって、昼休みほかの場所で遊ぶ事は出来るかもしれない。

でも私が何か変わったら、彼が離れてしまう気がするから…

<新一side>

俺は昼休みはいつも体育館裏にいる。

「遊ばうぜ」と声をかけてくる奴がいないわけでもない。

でも基本的に話せるのは元太と光彦くらいだ。

ただまだ、純粹に15歳になりきれていない自分がある…

アイツは…灰原はいつも教室で本を読んでいるみたいだ。
その姿はなんと言うか近づきにくいけれど、なんかきれいで…
素直に声をかけたらいいのに、ためらっている。
そっけなくされたら、きっと大きなダメージになってしまうから。

小学校の頃から灰原は変わっていない。

そんな灰原を見ることが安心して自分のいる自分がある。
けれど、今日は少し近づいてみよう。

(コナン) 「よお灰原。また読書かよ？」

(哀) 「江戸川君…」

(コナン) 「誰もいないことだし、遠慮せず話せよ」

コナンはそう言うとき哀の隣の席に座った。

(哀) 「…2回目の中学生生活は、暇で仕方が無いのかしら工藤君？」

(コナン) 「そういうんじゃないよ。ただ…たまにお前といえるのも良いかなあって」

(哀) 「なっ、何言ってるのよ…」

(コナン) 「なあ、いつも何の本読んでるんだ？」

(哀) 「ミステリー…かな」

(コナン) 「俺の厳選した推理小説でもどうよ」

(哀) 「あなたの推理オタク、移さないでよ」

(コナン) 「なっ、蘭みたいな事言っ…」

(哀) 「……」

(コナン) 「悪い、蘭の名前出して」

(哀) 「別に…私に気なんか使わないでくれる？」

(コナン) 「なあ灰原、俺はアイツの事はもう…思い出だから」

（哀）「だから、何？」

（コナン）「ん〜だからあれだ、昼休みでも使って、新しい思い出も作るつか…」

少し驚いた哀、そして…

（哀）「それも…良いかもね」

（コナン）「…やっぱオメエにはかなわないな」

（哀）「それって、どういう意味よ？」

（コナン）「さあな、シークレット、シークレット（笑）」

一人は落ち着くもの、けれどそれよりも二人の方が幸せになれる。

<志保 and 新一>

2回目の15歳は、前よりも甘酸っぱく…

二人でいる昼休みが日常になったら良いのにと、心底思った。

「angel of an early afternoon」(後書き)

昼休み図書室にいるとき、好きな人と二人っきりになって、話して楽しかった事を思い出して描きました。感想を聞かせてもらえると、うれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1440b/>

二人でいるコトで...

2010年10月22日00時10分発行